



スーパーヘッド用 KEIHIN PE24 キャブレターキット 取扱説明書

商品番号：03 05 0194 ビッグボアキャブレターキット（ハイフロータイプ）
：03 02 0001 マニホールキット

適応車種及びフレーム番号

Ape 50	:AC16	1000001~1499999	(当社製スーパーヘッド取付車)
Ape100	:HC07	1000001~	(当社製スーパーヘッド取付車)
Ape100タイプD	:HC13	1000001~	(当社製スーパーヘッド取付車)
XR 50モタード	:AD14	1000001~	(当社製スーパーヘッド取付車)
XR100モタード	:HD13	1000001~	(当社製スーパーヘッド取付車)
XR 100R	:HE03	2100001~	(当社製スーパーヘッド取付車)
CRF100F	:HE03	2400001~	(当社製スーパーヘッド取付車)

- ・この度は、TAKEGAWA 商品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。
- ・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。
イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。
この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
商品を加工等された場合や取り付けされた場合は、保証の対象にはなりません。
他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。

ドラムブレーキ車両の場合、別途ブレーキレバー&ワイヤーセット(06 08 3001)が必要となります。

このキットは、別売りのマッドガードとの併用をお勧めします。

このキットは、当社製スーパーヘッド及び当社製PE24キャブレターキット装着車両専用です。

ノーマルヘッド車両には使用出来ませんのでご注意ください。

エンジン内部に水分が入り込んだ場合、エンジン不調の原因となりますので、雨天中の走行は出来るだけ避けて下さい。又、洗車時等激しく水の掛かる時は、エアフィルターからエンジン内部に水が侵入しないように十分ご注意ください。

キャブレターは、天候・湿度・気温・標高や気圧等、自然現象及び車体差、キャブレターの個体差等によりセッティングを変更する必要があります。個々のエンジン、条件に合ったセッティングを行って下さい。

尚、キャブレターのセッティングは、本取扱説明書末尾に記載している状態で出荷しております。

このパーツはクロード競技用として開発した商品ですので、一般公道では使用しないで下さい。一般公道で使用する場合は、道路運送車両法の保安基準を充たし、遵法運転を心掛けて下さい。(道路運送車両法の保安基準を充たさない車両で公道を走行すると、違反となり運転者が罰せられます。)

Ape100:フレーム番号HC07 1600001~及びApeタイプD:フレーム番号HC13 1000001~の車両は、ノーマルマフラーとキャブレターが干渉します。フルエキゾーストマフラーの交換している車両が前提となります。

Ape100:フレーム番号HC07 1600001~及びApeタイプD:フレーム番号HC13 1000001~の車両で、バッテリーを使用する場合、別途バッテリーボックス、マッドガードが必要となります。又、一般公道で使用される場合、フェンダーレスキットが必要となり、ノーマルフェンダーは取り付け出来ません。ご注意ください。(道路運送車両法の保安基準を充たして下さい。)



注意

この内容を無視した取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び物的損害が想定される内容を示しています。

- ・作業等を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いかを確認し緩みがあれば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。(部品の脱落の原因となります。)



警告

この内容を無視した取扱をすると、人が死亡したり重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

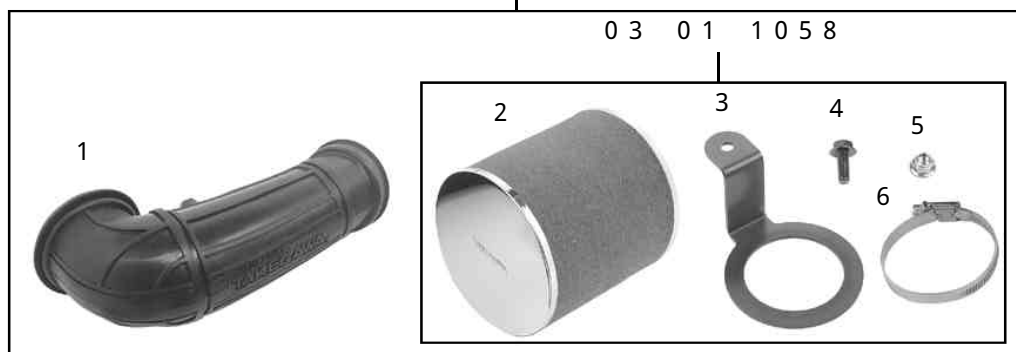
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。(不適切な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が周りに無い事を確認して下さい。又、酸化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。
- ・製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいます様お願い致します。

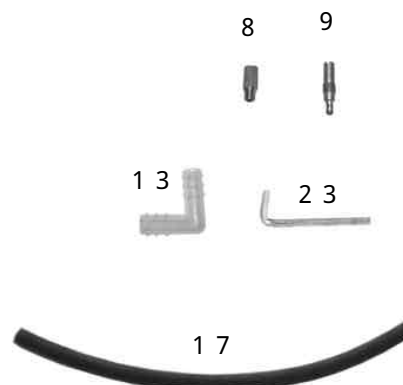
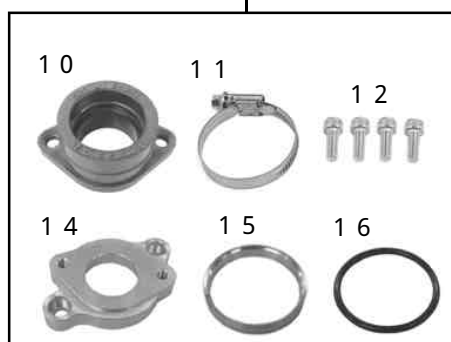
~商品内容~

03 01 1053



03 02 0001

09 02 0222



番号	部品名	数量	リペア品番	入数
1	コネクティングチューブ	1	17254 KRL T00	1
2	エアフィルター	1	_____	1
3	エアフィルターステ-	1	17260 GEY T00	1
4	フランジボルト 6×16	1	00 00 0134	4
5	フランジUナット 6mm	1	00 00 0091	6
6	クランプバンド(40 60mm)	1	00 00 0038	1
7	キャブレターASSY.(PE24)	1	03 03 022	1
8	メインジェット #120	1	00 03 0098	1
9	スロージェット #40	1	00 03 0170	1
10	キャブレターインシュレーター	1	00 03 0209	1
11	クランプバンド(30 45mm)	1	00 00 0050	1
12	ソケットキャップスクリュー 6×15(SUS)	4	00 00 0205	4
13	Lジョイント 10mm	1	00 03 0207	1
14	インレットパイプ	1	17110 KTK T00	1
15	カラー	1	16210 KPE T30	1
16	Oリング	1	00 03 0206	1
17	フルチューブ 200mm	1	00 03 0203(500mm)	1
18	スロットルCOMP.	1	_____	1
19	右グリップラバー	1	_____	1
20	左グリップラバー	1	53165 SSG T00	1
21	スロットルケーブルCOMP. 710mm	1	09 02 0071	1
22	六角棒レンチ 3mm	1	_____	1
23	六角棒レンチ 5mm	1	_____	1

印は、03 02 0001 マニホールドキットを示しています。

リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。

あらかじめご了承下さい。

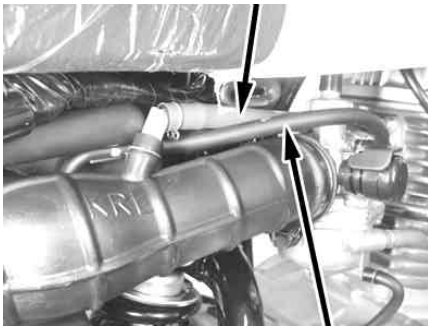
尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

～取 り 付 け 要 領～

純正キャブレターの取り外し

1. 2本のボルトを取り外し、シートを後方に引いて外します。
2. 右サイドカバーのボルトを取り外し、ボス2ヶ所をフレームから外し、右サイドカバーを外します。
3. 左サイドカバーのボス3ヶ所をフレームから外し、左サイドカバーを外します。
4. ストレージタンクホースとキャブレターエアイベントチューブをエアクリーナーケース側から外します。
ストレージタンクホースはブリーザーチューブジョイントごと外して下さい。

ストレージタンクチューブ

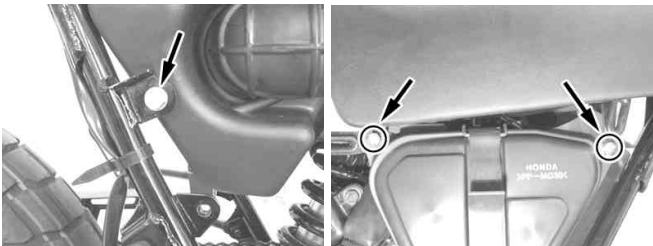


エアイベントチューブ

5. コネクティングチューブバンドスクリューを緩めます。



6. ノーマルエアクリーナーケースを止めているケースマウントボルトを左側から2本、右側から1本を取り外します。



Ape100:HC07 1600001~及びHC13 1000001~の車両で、バッテリーをご使用される場合、バッテリーボックス及び各キットの取り付け要領に従い、バッテリーを取り付けます。

7. コネクティングチューブをキャブレターから外し、エアクリーナーケースを取り外します。

8. コネクティングチューブに接着剤を塗布し、エアフィルターとステアの穴位置を合わせ、コネクティングチューブを取り付けます。

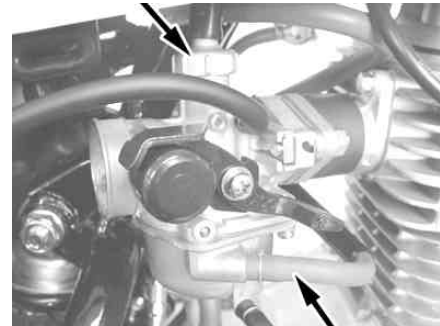


接着面は汚れ、油脂分を取り除き、十分乾燥させた後、ホンダボンドAまたは相当品を薄く塗布し、接着面が乾かないうちにエアフィルターを取り付けます。

接着剤に添付されている仕様説明書に従って使用して下さい。エアフィルター取り付け後、接着剤が固まるまで最低2時間は放置して下さい。

9. フューエルコックを閉じます。キャブレターのドレンコックを開きフロートチャンバーからガソリンを受け皿に抜き取ります。
10. フューエルチューブをキャブレターから外します。キャブレタートップを外し、スロットルバルブをキャブレターから取り外します。スロットルバルブとスロットルケーブルを分離し、トップカバーを抜き取ります。

トップカバー



フューエルチューブ

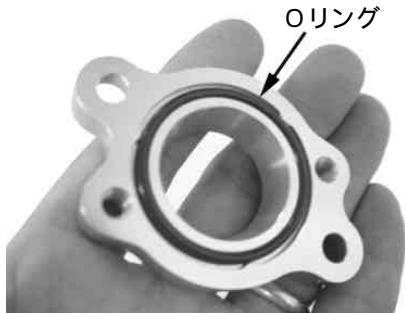
11. インレットパイプ固定ボルトを取り外しインレットパイプを取り外します。
インテークポート内に異物等が入らないよう注意して下さい。



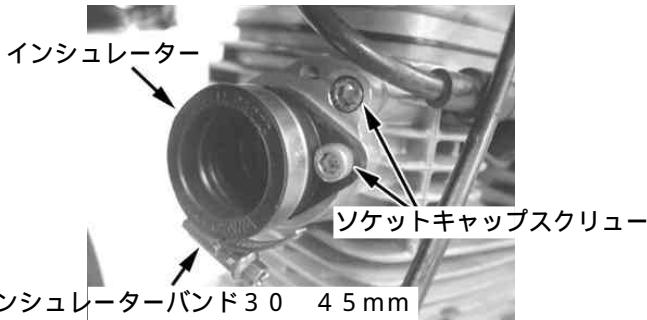
12. スロットルハウジングのパンスクリューを車両から外します。

キャブレターの取り付け

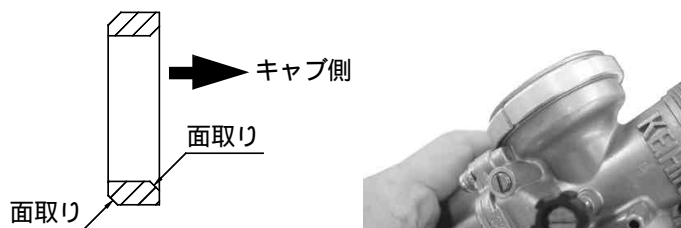
1. PE24キャブレターのフロートチャンバーを外し、メインジェット及びスロージェットをキット付属の物に交換し、フロートチャンバーを元通りに取り付けます。
2. キット内のインレットパイプ裏側の溝にキット内のOリングを取り付け、シリンダーヘッドにソケットキャップスクリューを用いて取り付け、規定トルクまで締め付けます。
トルク = $10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)
注意：必ず規定トルクを守る事。



3. 取り付けしたインレットパイプにキット内のインシュレーターをソケットキャップスクリューを用いて取り付け規定トルクまで締め付けます。
トルク = $10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)
注意：必ず規定トルクを守る事。

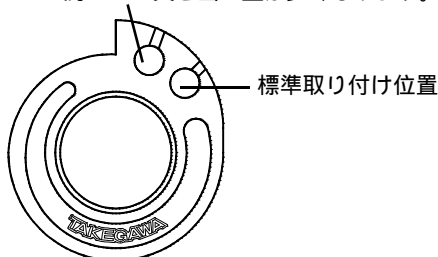


4. キャブレターインシュレーターにインシュレーターバンド (30 45mm) を取り付けます。
5. キャブレターの口にキット内のカラーを図を参考に取り付けます。コネクチューブを取り付けない場合は、必要ありません。



6. キット内のスロットルハウジングのスクリューを取り外し、ハウジングを分割します。
7. ハンドルのスロットルパイプ摺動部にグリスを塗布し、スロットルパイプを取り付けます。
8. ロワーハウジングにスロットルケーブルを仮締めし、ケーブルエンドをスロットルパイプに接続します。ケーブルエンド部分とパイプのケーブル巻き取り部にグリスを塗布して下さい。

約9mm突き出し量が多くなります。



9. アッパーハウジングを取り付けスクリューを締め付けます。
トルク： $5\text{ N}\cdot\text{m}$ ($0.5\text{ kgf}\cdot\text{m}$)
注意：必ず規定トルクを守る事。

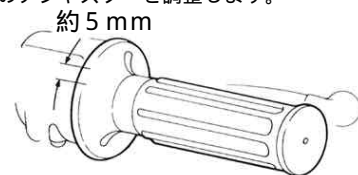
10. ハンドルとスロットルパイプのグリップ取り付け面と左右グリップラバー内面の汚れや油脂分を取り除きます。ハンドルとスロットルパイプにホンダ純正ホンダボンドA又はセメダインF540を薄く塗布し、接着面が乾かないうちにグリップを回しながら取り付けます。
11. キットのキャブレターのトップカバーを外して、スプリング、スロットルバルブを抜き取ります。スロットルケーブルのインナーケーブルをキャブレターのトップカバーから通し、さらにスプリングを通して、スプリングを締めながらスロットルバルブに取り付けます。スロットルバルブの切り欠き部をスロットルストップスクリューに合わせてキャレターに取り付けます。



12. キャブレターをインシュレーターに差し込み、クランプバンドを締め付けます。



13. スロットルケーブルロックナットを締め付けます。
トルク： $8\text{ N}\cdot\text{m}$ ($0.8\text{ kgf}\cdot\text{m}$)
注意：必ず規定トルクを守る事。
必要以上に締め付けた場合、ハウジングが破損する場合がありますのでご注意ください。
14. スロットルグリップ部で5mm程度の遊びが出来るようにスロットルケーブルのアジャスターを調整します。



15. スロットルを数回スナップさせしっかりやスロットルバルブの全開状態を確認します。ステアリングを左右いっぱいに切った状態でもスロットルに遊びがあることを確認して下さい。
16. フューエルチューブを差し込み、チューブクリップで止めます。

エアフィルター及びコネクチューブの取り付け

1. コネクティングチューブにクランプバンド(40 60mm)を通し、キャブレターに取り付けクランプバンドを締め付けます。



2. フランジボルト6 x 16、フランジUナットでエアフィルターステ-をフレーム右側のエアクリーナーケース取り付け穴に固定します。
トルク：1.2 N・m (1.2 kgf・m)
注意：必ず規定トルクを守る事



3. コネクティングチューブにストレージタンクホースを取り付け、チューブクリップを取り付けます。
エアベントチューブは走行に支障の無いようにまとめて下さい。
XR100R、CRF100Fに使用される場合は、キット同梱のLジョイントを用いて取り付けして下さい。
4. 左右サイドカバー、シートを取り付けます。
フューエルコックを開き各部からのガソリン漏れの有無を確認します。
(コックを開いたまま長時間放置しないで下さい。)
5. チョークレバーを引きエンジンを始動させます。チョークレバーを徐々に戻し、回転がスムーズになるまで暖機運転を行いチョークレバーを完全に戻します。エンジン暖気後アイドルリングしない場合や、アイドルリング回転数が高い場合は、スロットルストップスクリューで調整します。
6. 安全な場所で十分注意し、個々の車体に合ったセッティングを行って下さい。

～メンテナンス要領～

キットに含まれるハイフローフィルターは、容易にメンテナンスをすることが出来ます。エレメントが汚れた場合は、下記手順によりメンテナンスを行って下さい。

(市販のフィルタークリーナーやフィルターオイルといったケミカル類は使用しないで下さい。使用された場合、エレメントが劣化する可能性があります。)

1. 車両より取り外し、エレメント表面に付いた大きな塵等を取り除きます。
2. 市販の中性洗剤を薄めた洗浄液を作り、フィルターを洗浄液に浸し、エレメントを洗浄します。
(この時エレメントを硬いブラシでこすったり、強くエレメントを揉んだりしないで下さい。エレメントが痛みます。)
3. 水道水等の流水で、エレメントの内側から水を注ぎ込み、エレメントの洗浄液をよくすすぎます。
4. 洗浄液をすすぎ終わったら、エレメントを乾かします。
ウエス等でエレメントの水気を押さえるように拭き取り、風通しの良い日陰で自然乾燥させて下さい。
もし圧縮空気を用いる場合は、内側から弱い圧力で水気を吹き飛ばして下さい。

キャブレターの初期出荷状態

メインジェット	# 108
スロージェット	# 48
ジェットニードル	36S
クリップポジション	3段目
スロットルバルブカッターウェイ	# 3.0
エアスクリュ-オープニング	1 1 / 2

株式会社 **SPECIAL PARTS** 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号

TEL 0721 25 1357

FAX 0721-24-5059

お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857

URL <http://www.takegawa.co.jp>

キャブレターセッティング要領

- ・キャブレターがエンジンに適合していない時のエンジンに現れる不調の原因は、混合気が濃すぎるか薄すぎるかの2つの原因に絞られます。
- ・エンジンに現れる不調の現象は次の通りです。

混合気が濃すぎる時	混合気が薄すぎる時
<ul style="list-style-type: none"> ・爆発音が重い感じで断続する。 ・チョークを作動すると、より調子が悪くなる。 ・エンジンが暖機すると調子が悪くなる。 ・クリーナーを外すと調子が良くなる。 ・排気ガスが濃い。(黒い) ・プラグが黒くくすぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンがオーバーヒート気味になる。 ・チョークを作動すると、調子が良くなる。 ・加速が悪い。(息付きをおこす) ・回転変動があり、力がない。 ・プラグが白く焼ける。

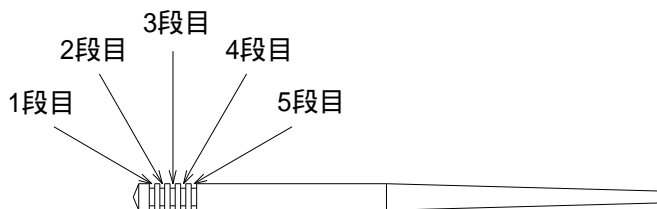
キャブレターのセッティングは暖機後に行い、走行確認を行って下さい。又、プラグは適正な熱価の物をご使用下さい。エンジン回転後、スロットル開度等により、どの範囲でエンジンが不調になるかを考慮し、下記の要領でセッティングして下さい。

ジェットニードル (スロットル開度 1 / 4 3 / 4)

加速時、スロットルに回転がついて来るか、来ないか

- ・息付きをする場合、濃くして下さい。
- ・回転の上がりが高く、排気ガスが黒い場合は薄くして下さい。

この開度での混合比は、Eリングを入れる溝の段数で調整出来ます。Eリング位置が1段目から5段目へ下がるにつれ混合気は濃くなります。



メインジェット (スロットル開度 3 / 4 4 / 4)

この開度での混合比は、ジェットの番数を変えることにより調整出来ます。番数を上げると混合気が濃くなります。仕様等を考慮の上、最高回転数(最高速度)の得られる物を選んで下さい。

パイロットジェット (調整前にもまずエアスクリューを調整して下さい。)

- ・エアスクリューの戻し量 3 .0 回転以上の場合、パイロットジェットを小さくして下さい。
- ・エアスクリューが全閉になる場合は、パイロットジェットを大きくして下さい。
- ・パイロットジェットはアイドルリングから低速運転時に、エンジン回転数がスムーズに立ち上がるか否かを確認します。
- ・回転上昇に谷が出来る場合、パイロットジェットが小さ過ぎます。(アイドル回転時)
- ・排気濃く排気音が重い場合、パイロットジェットが大き過ぎます。(アイドル回転時)
- ・パイロットジェット交換時には、エアスクリューの再調整が必要です。

エアスクリュー

エアスクリューはスロー系の空気流量を調整します。(アイドルリング時)

- ・エアスクリューを右に回す 混合気が濃くなる。
- ・エアスクリューを左に回す 混合気が薄くなる。

標準戻し回転数(1.5回転)に合わせ、左右に1 / 4 1 / 2 回転ずつ回しエンジン回転数が最も高くなる位置に調整します。アイドルストップスクリューで安定したアイドル回転まで下げ、もう一度エアスクリューで最も回転数が高くなる位置に調整します。

気圧、気温、湿度によるセッティングへの影響

- ・高地等で気圧が下がると空気密度が下がり、キャブレターへ吸入される空気量が減少します。この為、低地で調整されたキャブレターは混合気が濃くなります。
- ・非常に気温の低い天候下では、空気密度が上がる為、キャブレターの混合気は薄くなります。
- ・雨天の場合は湿度が上がる為、空気密度が下がりキャブレターの混合気は濃くなります。

性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で商品および価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいますようお願い致します。

株式会社 **SPECIAL PARTS 武川** 〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
 TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>
 お問い合わせ専用ダイヤル 0721 25 8857